

「超低消費電力型光エレクトロニクス実装システム技術開発」  
に係る評価の視点（又は確認すべき事項）（メモ）

平成23年10月28日  
評価専門調査会事務局

**【視点1】目標設定等の妥当性**

- ・プロジェクト全体及びそれを構成する研究開発課題ごとの達成目標・時期とその根拠は具体的に明確にされているか。
- ・要素技術の研究開発の現状を踏まえ、克服すべき主要技術の設定と投入資金計画等は妥当であるか。
- ・10年という実施期間の設定は国際競争という観点から見て適切か（短期間で集中して実施すべきではないか）。また、技術のベンチマーク及び計画のマイルストーンは明確となっているか。

**【視点2】マネジメントの妥当性**

- ・プロジェクトの推進主体及び技術開発等の実施主体各々の体制と役割分担は明確となっているか。特にプロジェクト推進主体の責任者及び権限は明確にされているか。
- ・技術の進展、社会情勢の変化にも柔軟に対応できる計画（計画の柔軟な見直しができる仕組み）となっているか。
- ・要素技術開発から動作検証まで確実にを行うために、担当機関及び企業が明確な役割分担と緊密な連携ができる体制が構築されることとなっているか。

**【視点3】産業化、社会実装に結びつけるための出口戦略**

- ・本事業による成果による経済波及効果（市場規模）を具体的に想定しているか。その上で、成果を利用した機器の普及促進を図るための課題及び方策等を明確にし、普及のためのシナリオ策定、ビジネスモデルまで含めた検討がなされているか。

**【視点4】知的財産権及び国際標準への戦略的対応**

- ・参加機関、企業等における知的財産権の利用、管理体制を含めた知的財産戦略は明確となっているか。

- ・世界における我が国の技術的状況を明確に把握し、遅れをとることなく市場優位な製品を出すための戦略やノウハウとして蓄積するものと国際標準化を獲得するものについての戦略の検討はどのようなになされているか。

#### **【視点5】他のプロジェクトとの関係の明確化と連携推進**

- ・経済産業省のICTエネルギー消費削減に関連する施策（「グリーンITプロジェクト」、「立体構造新機能集積回路（ドリームチップ）技術開発」、「低炭素社会を実現する超低電力デバイスプロジェクト」及び「ノーマリーオフコンピューティング基盤技術開発」）との相互の関係が明確にされているか。
- ・総務省が進めるフォトニックネットワーク技術に関連する施策（「フォトニックネットワーク技術に関する研究開発」及び「超高速・低消費電力ネットワーク技術の研究開発」）との具体的な連携方法（目標、達成時期、スペック等の合意）が明確となっているか。
- ・FIRSTプログラムの「フォトニクス・エレクトロニクス融合システム基盤技術開発」との役割分担は明確にされているか。